

マルコフ連鎖まとめ

@skbtkey

概要

この文書は卒研セミナーでのマルコフ連鎖のセミナーについて、毎回その要点をまとめるものである。気を付けなければいけないと思ったことは詳しく書く。また僕自身にとって簡単であるようなことは省略する。なお用いる教科書は Paul G. Hoel, Sidney C. Port, Charles J. Stone 著の Introduction to Stochastic Processes.

1 マルコフ鎖の定義と簡単な性質, いくつかの例

*1

1.1 マルコフ性の定義

\mathcal{J} は有限個の状態の集合とする。 \mathcal{J} のことを状態空間とよぶ。 離散時間 $n = 0, 1, 2, \dots$ が与えられていて X_n はそれぞれの時刻 n における状態を表すものとする。 ($n \geq 0$)。 この状態を数値に対応させることで X_n はある確率空間上の確率変数とみなす。

定義 1.1 (マルコフ性). 確率空間上 (確率測度は \mathbb{P}) で定義された確率変数列 $(X_n)_{n \in \mathbb{N}}$ がマルコフ性を満たすとは、次を満たすことである。

$$\mathbb{P}(X_{n+1} = x_{n+1} | X_0 = x_0, \dots, X_n = x_n) = \mathbb{P}(X_{n+1} = x_{n+1} | X_n = x_n)$$

マルコフ性の式を言葉で説明してみよう。 離散時間が与えられていてそれぞれの時刻で様々な状態を取るというモデルがある。 計測開始時点から現在までの状態が分かっているとする。 このとき、次の計測時点での状態が x_{n+1} であるような確率は、現在の状態のみに依存する。 現在の状態さえわかっているならば過去の状態は一つ次の未来がどんな状態であ

*1 Markov Chain の訳は本によってさまざま。 マルコフ系列だったりマルコフ過程だったりします。 ここでは読んでいる教科書の用語を直訳することを意識してマルコフ鎖, マルコフ連鎖とします。

るのかという確率には影響を与えない。

定義 1.2. 条件付き確率 $\mathbb{P}(X_{n+1} = y | X_n = x)$ のことを鎖の遷移確率 (transition probabilities of the chain) という。

この文書では変化しない遷移確率 (stationary transition probability) を持つマルコフ鎖を考える。すなわち、 $\mathbb{P}(X_{n+1} = y | X_n = x)$ が n に依存しないようなマルコフ鎖のみを考える。 n に依存しないとは、もっと具体的に言うと、

$$\mathbb{P}(X_1 = y | X_0 = x) = \mathbb{P}(X_2 = y | X_1 = x) = \cdots = \mathbb{P}(X_{n+1} = y | X_n = x)$$

が成り立つことを意味する。

定義 1.3. (マルコフ鎖の定義) 確率変数列 $(X_n)_{n \in \mathbb{N}}$ がマルコフ鎖をなすとは、これらの確率変数たちがマルコフ性を持ち、変化しない遷移確率をもつときにいう。

1.2 二つの状態をもつマルコフ鎖

表 1 機械の状態と遷移の確率の様子

nth day	遷移確率	(n + 1)th day
正常	\xrightarrow{q}	故障
	$\xrightarrow{1-q}$	正常
故障	\xrightarrow{p}	正常
	$\xrightarrow{1-p}$	故障

ある機械は 1 日の始まりに正常に動くか故障しているかチェックされる。表のように n 日目の状態と $n + 1$ 日目の状態の遷移の確率が定義されている。 $0 \leq p, q \leq 1$ である。機械が正常である時を 1, 故障しているときを 0 とする。 $(X_n)_{n \in \mathbb{N}}$ を n 日目の機械の状態を表すとする。このようにすると $(X_n)_{n \in \mathbb{N}}$ はマルコフ性を持つ確率変数であると考えられる（あくまでそんな気がする！）から、次のような計算ができる。

$$\mathbb{P}(X_{n+1} = 1 | X_n = 0) = p$$

$$\mathbb{P}(X_{n+1} = 0 | X_n = 1) = q$$

$$\mathbb{P}(X_0 = 0) =: \pi_0(0)$$

とおくと,

$$\begin{aligned}\mathbb{P}(X_{n+1} = 0) &= \mathbb{P}(X_n = 0 \text{ and } X_{n+1} = 0) + \mathbb{P}(X_n = 1 \text{ and } X_{n+1} = 0) \\ &= \mathbb{P}(X_n = 0)\mathbb{P}(X_{n+1} = 0|X_n = 0) + \mathbb{P}(X_n = 1)\mathbb{P}(X_{n+1} = 0|X_n = 1) \\ &= \dots \\ &= (1 - p - q)\mathbb{P}(X_n = 0) + q\end{aligned}$$

というふうに漸化式が得られるので、一般項を求める計算をすると,

$$\mathbb{P}(X_n = 0) = (1 - p - q)^n \pi_0(0) + q \sum_{j=0}^{n-1} (1 - p - q)^j \quad (1)$$